

# EUROPEAN PATENT OFFICE

## Patent Abstracts of Japan

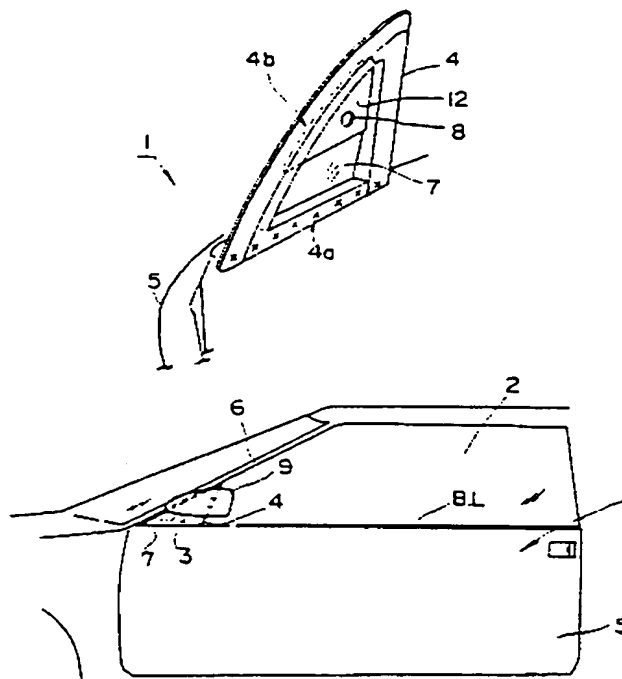
PUBLICATION NUMBER : 62055239  
PUBLICATION DATE : 10-03-87  
APPLICATION DATE : 04-09-85  
APPLICATION NUMBER : 60193967

APPLICANT : MAZDA MOTOR CORP;

INVENTOR : KANAMARU YUKIHIRO;

INT.CL. : B60R 1/06 B60J 5/04

TITLE : SIDEVIEW MIRROR MOUNTING  
STRUCTURE OF MOTOR VEHICLE



ABSTRACT : PURPOSE: To improve side field of view by mounting a door-mounted sideview mirror by using a window glass fixed in the forward side lower corner of a vehicle window.

CONSTITUTION: A vehicle window 2 of a front side door 1 is equipped in its lower corner 3 toward the front of a vehicle body with a triangular auxiliary sash 4. The auxiliary sash 4 with its oblique side 4b extending along a front pillar 6 is fitted with a window glass 7 the bottom of which is fixed to the lower corner section 3. A through hole 8 for a bolt is formed in the upper part of the window glass 7. By using the bolt-through hole 8 a door-mounted sideview mirror 9 is mounted.

COPYRIGHT: (C)1987,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-55239

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)3月10日

B 60 R 1/06  
B 60 J 5/04

D-7443-3D  
Z-6848-3D

審査請求 有 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 自動車のミラー取付構造

⑯ 特 願 昭60-193967

⑰ 出 願 昭60(1985)9月4日

⑱ 発 明 者 金 丸 幸 広 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内

⑲ 出 願 人 マツダ株式会社 広島県安芸郡府中町新地3番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 村 田 實

## 明 細 書

### 1 発明の名称

自動車のミラー取付構造

### 2 特許請求の範囲

(1) フロントサイドドアの車窓の前方側下隅コーナー部に配設された枠形部材にウインドガラスが固定され、

該ウインドガラスを介してドアミラーが取付けられている、

ことを特徴とする自動車のミラー取付構造。

### 3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は自動車のミラー取付構造に関し、より詳しくは、ドアミラーの取付構造に関するものである。

(従来技術)

ドアミラーの取付構造としては、実開昭58-104744号公報に見られるように、ドアミラーのベース部をサッシとドアアウトパネルに跨設し、このベース部を介してドアミラーを取付ける

ようにしたものが多い。

(発明が解決しようとする問題点)

このような取付構造では、ドアミラーのベース部とウインドガラスとの干渉を避けるため、どうしても、ベース部をウインドガラスより外側に配設しなければならず、ドアミラーのベース部が車体外方に突出した存在になってしまうという問題がある。

加えて、ドアミラーの高さ位置がベルトラインに規制され、ドアミラーの高さ位置を任意に設定しにくいという問題がある。すなわち、ドアミラーをベルトラインより離れた高さ位置に設定するとすれば、ドアミラーのベース部を大きくしなければならず、このベース部によって側方視界が害される。

ところで、近時、側方視界をよくするためにベルトラインを低く設定する傾向にあり、ドアミラーをベルトラインより高い位置に配設する必要性が高まっている。

このような要請に対して、サッシドアの場合に

は、そのサッシにドアミラーを取付けることが考えられる。しかしながら、このような取付法によるときには、先ずサッシドアにしか適用することができず、またドアミラーの取付けのために、サッシを太くする必要が生じ、側方視界の確保にとって好ましくない結果となる。

本発明は、上記実情を勘案してなされたもので、上記問題点を解消しつつドアミラーの高さ位置をベルトラインに規制されることなく任意に設定することができるようにした自動車ミラー取付構造を提供することにある。

(問題点を解決するための手段、作用)

かかる技術的課題を達成すべく、本発明においては、フロントサイドドアの車窓において、該車窓の前方側下隅コーナー部に配設された枠形部材にウインドガラスを固定し、このウインドガラスを介してドアミラーを取付けるようにしたものである。

このような構成とすることにより、車窓の前方側下隅コーナー部に固定されたウインドガラスが

従来におけるドアミラーのベース部として機能することとなり、ベース部が車体外方に突出するという問題を解消することができる。

また、ドアミラー取付部がウインドガラスで構成されているため、側方視界を阻害するという問題をも解消することができる。このことから、ドアミラーの高さ位置をベルトラインに規制されることなく任意に設定することができる。つまり、ベルトラインを低く設定したとしても、別段、側方視界を害することなくドアミラーを任意の高さ位置に設置することができる。

加えて、上記ウインドガラスを、車窓の前方側下隅コーナー部に配設された枠形部材によって固定するようにしたことから、該枠形部材により、フロントサイドドアの剛性が高められることとなる。

更に、サッシドア、サッシレスドアの移管を問わず本発明を適用することができる。サッシドアの場合、ドアミラーの取付けのためにサッシを太くする必要がない。

3

(実施例)

以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

第2図において、1はフロントサイドドアで、フロントサイドドア1は、実施例では、サッシレスドアとされている。フロントサイドドア1の車窓2には、その車体前方側の下隅コーナー部3に、三角形の補助サッシ4が配設されている。

補助サッシ4は、第1図にも示すように、その底辺部4aが、フロントピラー6に沿って延びるものとされ、補助サッシ4にはウインドガラス7が嵌め込まれて、ウインドガラス7は下隅コーナー部3に固定されている。このウインドガラス7の上部には、ボルト挿通孔8が形成され、このボルト挿通孔8を利用してドアミラー9が取付けられているようになっている。

ドアミラー9は、第3図に示すように、ドアミラー9の基部9aにボルト10が挿設されており、このボルト10を上記ボルト挿通孔8に挿通させて、車室内からナット11を締めつけること

4

により、ドアミラー9の取付けがなされる。尚、第1図、第3図において、符号12は、補強用の当て板である。

このような構成において、ドアミラー9の取付けは、下隅コーナー部3に固定された上記ウインドガラス7を介してなされているため、従来のように、ドアミラーのベース部、つまり、ドアミラーをフロントサイドドア1に取付けるために、ウインドガラスより外側に配設しなければならない取付部材を設ける必要がなく、したがって、ドアミラー9の取付部が車体外方に突出するという問題を解消することができる。このことから、外観上すっきりした状態でドアミラー9を装着することができるため、フロントサイドドア1との一体感を増すことができ、外観上の見栄えを向上することができる。

また、ドアミラー9の取付部以外は、ウインドガラス7によって、側方視界を確保することができる。勿論、ベルトラインB、Lを低く設置したものにあっては、下隅コーナー部3に固定された

5

6

上記ウインドガラス7の大きさを適当な大きさとすることにより、ドアミラー9の高さ位置を任意に設定することができる。このことは、ベルトラインB1の高さに規制されることなくドアミラー9の高さ位置を設定しうることを意味するものである。

更に、上記ウインドガラス7を、車窓2の前方側下隅コーナー部3に配設された枠形部材4によって固定するようにしたことから、フロントサイドドアの剛性は、枠形部材4により高められることとなる。

以上、本発明の実施例を説明したが、フロントサイドドア1がサッシドアであったとしても、本発明を適用しうることは勿論である。この場合、ドアミラーを取付けるためにフロントサイドドア1のサッシを太くする必要はなく、この点からも側方視界の広いものとすることができる。

(発明の効果)

以上説明から明らかなように、本発明によれば、ドアミラーの取付部が車体外方に突出するこ

とがないため、外観上すっきりした状態でドアミラーを取付けることができ、外観上の見栄えを向上することができる。

また、ドアミラーの取付が、車窓の前方側下隅コーナー部に固定されたウインドガラスを介してなされるため、側方視界を向上することができる。したがって、ドアミラーの高さ位置を、ベルトラインに規制されることなく、任意に設定しうるため、ベルトラインを低く設置したものに対しても、側方視界を阻害することなく適用することができる。

加えて、車窓の前方側下隅コーナー部には枠形部材が配設されているため、該枠形部材によってフロントサイドドアの剛性を高めることができる。

加えて、サッシドア、サッシレスドアを問わずドアミラーの取付けを行なうことができる。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は、本発明をサッシレスドアに対して適用した実施例を示す要部斜視図。

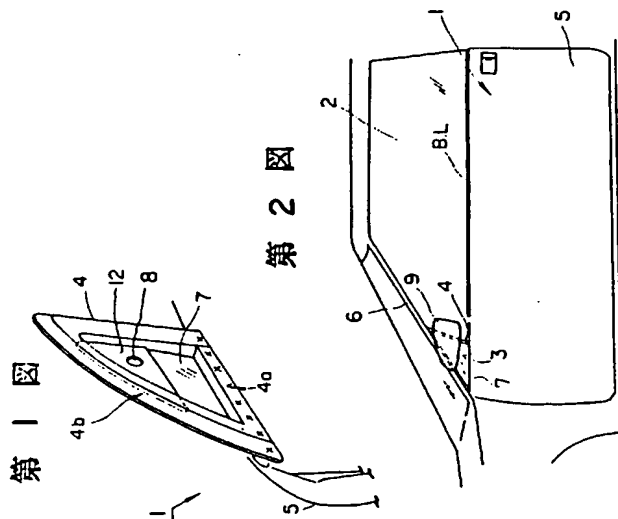
第2図は、本発明が適用された自動車を側方から見た側面図。

第3図は、実施例のドアミラー取付構造を詳細に示す要部断面図である。

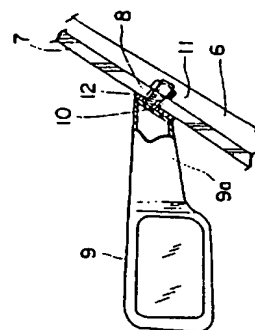
- 1：フロントサイドドア
- 2：車窓
- 3：車窓の前方側下隅コーナー部
- 4：補助サッシ
- 7：固定ウインドガラス
- 9：ドアミラー

特許出願人 マツダ株式会社  
代理人 弁理士 村田 実





第 3 図



特 許 補 正 書 (自 発)

昭和60年<sup>12</sup>月<sup>10</sup>日

特許庁長官様

1 事件の表示

昭和60年特許第193967号

2 発明の名称

自動車のミラー取付構造

3 補正をする方

事件との関係 特許出願人

名称 (313) マツダ株式会社

4 代理人 〒105 TEL(508)1801

住所 東京都港区新橋3丁目7番3号、ミドリヤ第2ビル

氏名 (8076) 村 田 実

5 補正命令の日付 「自発」

6 補正の対象

(1)明細書の「発明の詳細な説明」の欄

(2)図面

7 補正の内容

(1)明細書第5頁第10行目から第11行目の「底辺部4aが、・・・ものとされ、」とあるのを削除し、以下の文を挿入する。

「側辺部4bが、フロントピラー6に沿って延びるものとされ、底辺部4aはドアパネル5に接合されている。」

(2)明細書第6頁第3行目の「・・・である。」の次に以下の文を挿入する。

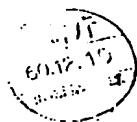
「また、第3図中、符号13はドアミラー9とウインドガラス7との間に介装されたクッションラバー、符号14は当接部12をウインドガラス7に接合する接合部である。」

(3)明細書第6頁第19行目(末行から第2行目)の「ベルトラインB、L」とあるのを、「ベルトラインBL」に補正する。

(4)図面のうち、第3図を添付補正図の如く補正する。

8 添付図面(第3図)

1 通  
以 上



第 3 図

